

道徳の時間学習指導案

三次市立みらさか小学校

- 1 日 時 平成29年 11月 10日 (金) 第2校時
- 2 学 年 第1学年 児童数15名 (男子11名, 女子4名)
- 3 場 所 小学校棟 1学年教室
- 4 主題名 友達を思う心【内容項目B 友情・信頼】

- 5 ねらい はじめは賑やかなうぐいすの家に行ったみそさざいが、山の奥で一人で待つやまがらの家を訪れ、涙を浮かべて喜ぶやまがらを見た気持ちを考えることを通して、友達の気持ちを思いやる大切さに気付き、友達と仲良く助け合っていこうとする道徳的实践意欲と態度を養う。

- 6 教材名 「二わの小とり」 出典【学研】

7 主題設定の理由

○主題観・価値観

本主題は、「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」のB-(9)「友達となかよくし、助け合うこと」をもとに設定した。

友達とは、家族以外で特に深い関わりを持つ存在である。子ども達は、共に学んだり、遊んだりすることを通して、互いに影響し合って友達関係を構築させていく。友達と関わることを通して、互いの理解を深め、仲良く助け合うことに喜びが生まれる。友情を育むためには、助け合いの気持ちが基盤として大きな核となる。また、世代が同じ者同士、似たような体験や共通の興味や関心を有することで、互いの考え方などを交え、深まっていく。友達は、豊かに生きる上で大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。

1年生の段階は、自分が大切にされたいという思いが強く、友達の立場を理解したり、自分と異なる考えを受け入れたりすることは難しい。そこで、困っている友達がいれば助け、相手が喜ぶ様子を見て共に喜んだり、友達と励まし合い、その成果を共に喜び合ったりして、仲よく生活しようとする心情を育てたいと考え、本主題を設定した。

○児童観

本学級の児童は、学習中に解らないところを教え合ったり、休憩時間に誘い合ったりして遊ぶ姿がよく見られる。生活の中で、困っている友達を助けてあげたいという思いはもっているが、どのように声をかければよいか分からず、教師に助けを求めることも多い。また、遊びや活動では、自分で考えて行動するよりも、仲の良い友達と一緒に行動したいという思いが強い。

≪i-check 結果≫

質問項目	肯定的評価	否定的評価
仲良しの友達がありますか	100%	0%
友達から頑張ったね、すごいねと褒められて、嬉しかったことがありますか	93.3%	6.7%
悲しかったとき、友達から慰めてもらって、嬉しかったことがありますか	80%	20%
大きくなったら、あんな人になりたい、こんなことがしたいという夢がありますか	100%	0%
友達が話している時は、最後まで聞いていますか	100%	0%
友達に元気がない時は、声をかけてあげますか	100%	0%

上記の「i-check」の結果から、友人関係について肯定的な評価が多いことが分かる。特に、困っている友達に声をかけたり、友達の話最後まで聞いて相手を大切にしたりしたいという意欲は高い。しかし、実際の場面では、自分の気持ちに左右された行動をとることで、相手が嬉しいと感じる行動には至っていないこともある。

○教材観・指導観

本教材は、2羽のこりの心情を通して、友情・信頼について考えることができる話である。遠い山の家に住むやまがらの誕生日に招待されていたみそさざいは、他の友達と近くの梅林に住むうぐいすの家へ音楽会の練習にいつてしまう。しかし、さびしく待っているやまがらのことを思い、音楽会の練習をそっと抜け出してやまがらの家へ行く。みそさざいがきてくれたことを小さな目に涙を浮かべて喜ぶやまがらを見て、みそさざいも喜ぶという内容である。登場人物の心情に十分共感させることで、友達の喜びが自分の喜びにつながることに気付かせ、友達の温かさを感じ取ることができる教材である。

指導にあたり、導入では、友達と一緒に遊んでいる場面を写真で提示し、価値への動機付けをし、友達と一緒にいるときのうれしい気持ちや楽しい気持ちを十分に出させたい。

授業展開前段では、うぐいすとやまがらのどちらの家に行くか迷うみそさざいの気持ちに共感させたい。その際にみそさざいにとって、うぐいすもやまがらも友達であることを確認し、迷いながらもどちらかを選ばなければならないみそさざいの気持ちに寄り添わせたい。

授業展開後段では、みそさざいが、うぐいすの家をこっそり抜け出し、やまがらの家へ向かう時の気持ちを考えさせ、やまがらを心配し思いやる気持ちに気付かせたい。

中心発問では、小さな目に涙を浮かべて喜ぶやまがらを見たみそさざいの気持ちを考えさせ、友達の喜びが自分の喜びにつながることを感じ取らせ、友達の気持ちを思いやり、友達と仲良く助け合っていこうとする道徳的実践意欲と態度を養いたい。

価値を深める話し合いの過程として、まず、児童に自分の考えと向き合わせるために中心発問に対して自分の考えをワークシートに記述させたい。その後、学級全体で考えを深めていくために、役割演技を取り入れ、やまがらの喜びと、喜ぶやまがらを見たみそさざいの喜びの両方に気付かせ、友情・信頼についての価値を深めさせたい。

終末では、学習発表会に向けて練習している写真を紹介する。自分たちも、友達と仲良く、助け合いながら生活していることに気付かせたい。

8 指導のポイント

(1) 小中9年間の発達段階における【友情・信頼】のとらえ

段階	学習指導要領（ねらい）	ポイント	児童・生徒の言葉
低学年	友達と仲良くし、助け合うこと。	・友達と仲良くする。 ・友達と助け合う。	・友達と一緒にいると楽しい。 ・友達と一緒になら頑張れる。 ・友達をたくさんつくりたい。
中学年	友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。	・友達と理解し合う。 ・友達と信頼し合う。	・友達には良いところがある。 ・友達と心から信じ合える。
高学年	友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと。	・友達と学び合う。 ・異性を理解する。	・友達からいろいろと学ぶことがある。 ・男子も女子もお互いの良さを認め合おう。
中学生	友情の尊さを理解して心から信頼できる友をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。	・友情の尊さを理解する。 ・友達と励まし合う。 ・友達と高め合う。 ・悩みや葛藤を乗り越え、人間関係を深める。	・友達は生涯の宝物。 ・友達は信頼できる相談相手であり、良きライバルでもある。 ・友達とはケンカもするけど、何でも話せる。

(2) 主体的に学び合う授業づくりについて

○導入の工夫

- ・友達と一緒に遊ぶ写真を掲示し、友達と仲良くしている時の楽しさや嬉しさを思い起こさせ、友情の価値への動機づけをする。

○中心発問へのアプローチ

- ・「友情・信頼」に関わり、みそさざいの気持ちの変化を個人思考させる。

○自分の生活につなげる工夫

- ・本時の授業で考えたことを、自分たちの日常生活写真を掲示し、道徳的実践意欲と態度につなげる。

(3) 共同的に学び合う授業づくりについて

- ・主人公の気持ちに共感させ、価値について個人で考えたことを元に話し合いの場を設定し、価値を深めさせる。

9 評価

【授業評価のためのルーブリック】

Hop	Step	Jump
涙を浮かべて、喜ぶやまがらの姿を見たみそさざいの気持ちを考えることのできる授業であった。	友達の気持ちを思いやる大切さに気づくことのできる授業であった。	友達と仲良く助け合っているようにしようとする道徳的実践意欲と態度を養うことのできる授業であった。

10 準備物

教材、道徳ノート、発問短冊、挿絵、ワークシート（道徳ノート）

みんなでがんばる！みらさかきっず

中心となる学習活動：学習発表会（国語科）

主体性を育てる
 【国語科における道徳教育のねらい】
 学習発表会に、自分の目標をもち、努力し続けることができる。

道徳の時間
 「こぐまのらっぱ」
 （東京書籍）
 A 希望と勇気、努力と強い意志
 何度も何度も練習を続けるこぐまの気持ちを考える活動を通して、努力することの大切さに気付き、自分で行わなければならないことは、最後まで粘り強く行おうとする道徳的心情を養う。

自己有用感を育てる
 【国語科における道徳教育のねらい】
 みんなのために自分のできることを考え、行動することができる。

道徳の時間
 「ゆかいなせんたくもの」
 （東京書籍）
 C 家族愛、家庭生活の充実
 家族の洗濯物を干している「わたし」の気持ちを考える活動を通して、進んで家族のために働く大切さに気付き、みんなのために、自分のできる仕事を積極的に行おうとする道徳的心情を養う。

コミュニケーション能力を育てる
 【国語科における道徳教育のねらい】
 学習発表会の練習を通して、相手の立場や気持ちを考え、友達と仲良く助け合うことができる。

道徳の時間
 「二わの小とり」
 （東京書籍）
 B 友情、信頼
 はじめは賑やかなうぐいすの家に行ったみそさざいが、山の奥で一人で待つやまがらの家を訪れ、小さな目に涙を浮かべて喜ぶやまがらを見た気持ちを考えることを通して、友達の気持ちを思いやる大切さに気付き、友達と仲良く助け合っていこうとする道徳的実践意欲と態度を養う。

道徳の時間 D 生命の尊さ
 「命の大切さを周りの人の思いを知り、精一杯生きようとする意欲を持たせる。」
 「ときどきときどききんぐ」
 （東京書籍）

特別活動「おいしくいただきます」

道徳の時間 D 生命の尊さ
 「いただきます」
 （文溪堂）

4月

9月～12月

3月

○ 期待する意識の流れ
 自分に任されたことを頑張ろう。⇒家族の応援がうれしいな。
 ⇒友達と仲よくしていこう。⇒みんなでがんばろう！

二つの小とり

きょうはやまがらの たんじょうびです。

うぐいすの挿絵

- ・うぐいすさんの家は近いから
- ・歌の練習が楽しそうだったから
- ・みんなが行くから

たのしくすごしていました。

みそさざいの挿絵

- ・やっぱり、やまがらの家へ行くころ。
- ・早くやまがらのところへ行つてあげたい。
- ・誕生日なのに一人でさみしいだろうな。
- ・遠いけど、やまがらのために頑張ろう。

ちいさなめになみだをうかべて、よろこんでいるやまがらを見て、みそさざいはどんなきもちだったでしょう。

- ・遅くなってごめんね。
- ・がんばって来てよかったな。
- ・こんなに喜んでくれてうれしいな。
- ・やまがらが喜んでくれてうれしい。

やまがらは、ちいさなめになみだをうかべてよろこびました。

やまがらの挿絵

- ・やくそくしたから
- ・友達だから
- ・お祝いをしてあげたいから
- ・たんじょうびだから